(一)　第698号　昭和27年9月25日 第三種郵便物認可　THE MIIKE　【毎週日曜日発行】　昭和36年(1961)12月24日（日）

悪どい差別切崩しと対決
闘い抜いたこの一年
62年を輝く前進の年に

たたかいの年、一九六一年も終わり新しいたたかいの年を迎えようとしている。悪どい会社の差別・切りくずし攻撃に対決して、この一年を激しくたたかいぬいたみんなの力をさらに強め来る年も不屈の前進をつづけよう。一九六一年さようなら。

発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市不知火町2
電話3033番
7140番
編集兼発行人　境　孜

年末・年始に入り会社の組織切りくずし攻撃を粉砕し、みんなの固い団結で組織を守りぬこう。

一九六一年。みんなでたたかいぬいたこの一年を、おおまかにふりかえってみよう。

会社の悪どく、ろこつな差別・切りくずし攻撃に対決してたたかった三池の、この一年をふりかえるとき、いま社会主義国がめざましい発展をとげている一方で、資本主義諸国が深刻な危機に直面し、衰退の道をたどつていることをひとつのおおきな特徴としてうごいている世界情勢や、その反映としてひどい反動コースをすすんでいる日本の反動政府・独占資本の荒々しい反動政策の波のひとつひとつと無関係にみることはできない。それは、三池に加えられた攻撃はすべて、深刻な危機に直面しながら、労働者への一方的な犠牲のしわよせで、延命をはかろうとする資本の狂暴な攻撃の典型だつたしわれわれのたたかいも、そうしたおおきな背景をもつ攻撃の本質を正しくみすえた、ねばりづよい闘争だつたから。

しかし、ここでは三池でのうごきだけにかぎつて、おおづかみにふりかえつてみることにしよう。

不屈なあしあと

三池労組のふつつふしをねらつた目にあまる会社の差別・切りくずし攻撃の中で、みんなが助けあいはげましあつてたたかつた。ひとくちにそうはいつても、そこには人権じゅうりん、人権無視の差別・切りくずしに屈せぬ一人ひとりの、家族ぐるみのおおきな力、卑劣な会社の肉体的、精神的、経済的攻撃に動ぜぬみんなのすざましい力がそそがれた。そしてその力がみんなをさらに強くし、美しくもした。

しかし、今年のはじめ三池労組六六三四名、第二組合五、八六〇名（一月末）だつた組織勢力は、八月に三池労組五、九一六名、第二組合六、二五〇名と過半数をうしない、現在（十一月末）では、三池労組五、三四七名、第二組合六、七三四名となつており、千名以上もが戦列をはなれ、第二組合に落ちていることは、会社の差別・切りくずし攻撃の荒々しさと、働く者の誇りと正しさを守つてたたかいぬくことのきびしさをしめしている。

一方、差別切りくずし排除をめぐる対会社交渉のうごきをみると、一月二十三日に、差別排除要求を出し団交申入れ、二月三日に団交をはじめ、六月以降はトツプ交渉にうつして解決への努力をかさねてきたのである。そして八月二十四日、会社の最終回答が出されたが、あくまで差別攻撃によつて三池労組を破かいしようとする高姿勢な会社の態度はかわらず、八月二十九日、ついに三カ月半にわたつてつづけられた山元交渉――トツプ交渉は決裂したのである。

決裂後ただちに中央委員会をひらき闘う方針をきめ、九月三日には笹林公園で「差別反対総決起大会」をひらいて、不動の団結でねばり強くたたかいぬく決意をかためた。そして、炭労の指示によつて山元交渉決裂にともなうスト突入態勢の確立、不当な組織切りくずし、差別攻撃にたいする組織行動として団結集会の実施など、闘争体制確立にあたつての諸行動を起こす準備をすすめた。

ところが、決裂した山元交渉が再開されることになつたので行動開始を一時延期して交渉を再開したしかし、その交渉も十三日に再び決裂し、十五日には二十四時間ストを決行、激しいたたかいに入つた。

こうして二四スト決行後、引きつづいて団結集会などをひらいて団結をかため、その後の戦術として保安順法闘争、時間外拒否、時限スト、方別スト、二四ストのうち効果的戦術をとらえて毎週一回実施せよという炭労指令によつて十月四日三番方の方別スト決行以来ずつと毎週方別ストをつづけて、会社に大きな打撃をあたえているこうして、いまも実力をかけたたかいがつづけられているが、これからの闘争のすすめ方としては長期なねばり強い抵抗闘争を基本としてたたかいつづけていくが、当面とくに激げしい人権じゅうりんの不当差別排除、職組による組織介入反対、組合活動の抑圧排除の三点を中央交渉に移し、三鉱連の協力のもとに三池における実力行使を強めながら強力にたたかう方針で、十一月二十二日炭労として三井鉱山に交渉申し入れを行なつている。

一方三池労組は、八月末に三鉱連への復帰加入申請を行なつている。

役員改選を延期
一月末に新機構で発足

十二月十日の中央委員会では議事の一つとして役員改選延期が提案され、討議のすえ満場一致でこれを決定した。このため規約にもとづき組合員の無記名投票が十八日から行われた。

昨年十二月、組合では三池闘争のため延期されていた役員改選を、二十七日投票、二十九日機関構成を行なつて組織機構の改革をはかり、この一年をたたかつてきたものであるが、現在任期満了に近いする十分な組織固めも検討しなければならない段階である。

また、中央に移された三池問題の中央交渉の動きも考慮しなければならないなど、改選をひかえて重要な問題が重なつており、執行部ではこの実態を考慮して改選を一カ月延期、来春一月末に新機構で発足することとし、その間十分な対策を検討することになつている無記名投票の結果は下の通りである。

※在籍は十二月十八日現在在籍者で会社発表数字。（ ）内は離職者組合員。

	在籍	投票数	賛成	反対	無効
宮浦	1,496 (15)	1,178	1,140	28	2
四山	1,036 (14)	804	782(14)	18	4
三川	2,013 (60)	1,735	1,709(58)	24(2)	2
本所	447 (2)	429	428	1	0
港務	379 (25)	366	362(25)	4	0
計	5,371(116)	4,504	4,421	75	8

団結破壊をねらい
あいつぐ狂暴な攻撃

就労後の職場における保安無視の労働強化はひどい。

生産は一カ月一人平均約三〇トン（闘争前の二倍）にも上昇しているが、それは十七名もの殉職者を出し、毎月四百名に近い重軽傷者を出すという犠牲のうえに上げられた生産である。

また、組合活動を不当に抑圧制限し、一方的に労働強化をおしつけようとする職制支配のもとで、強要された労働の結果でもある。

時間外における構内での団結集会禁止、執行委員の入門・入構の職制のピケによる阻止、はち巻や腕章をつけることさえも禁止するといつた攻撃をかけ、保安を無視した職制のやり方に当然の抗議をしたことに不当ないいがかりをつけ四山の谷口分会長に、解雇処分をもちだしてきたことなど、会社の狂暴さがロコツに見られる。

このようにして会社は、山元交渉決裂後、実力行使をふくむ反撃態勢に立ち上つた三池労組にたいして差別・切りくずしをつよめ、組合活動を抑圧否定する高姿勢を構えでひどい攻撃を加えてきたが、が、中央交渉のかべは当然にあつく、これからの三池闘争が平たんでないことを決意しなければならない。

みんなで長期抵抗の路線にたつて全力をあげ大小の犠牲をふみこえてきびしいたたかいの道をすすまねばならない。

さらに来年には一五、〇〇〇トン出炭体制を確立するとして、三川四山などにたいする組夫導入問題をもちだしたり、第二組合とは金一封と引きかえに二カ年間はストをやらないという平和協定――休戦協定を結んで大がかりな攻撃にのりだしてきた。

その一環として十一月三十一日に三池争議の責任追及として不当にも三十一名にたいして解雇処分を申し入れてきた。

そして、この不当解雇をめぐる団交においても、会社は組合のするどい追及を無視し、一方的に団交を打ち切り、十二月十一日に組合との十分な協議がとのはないまま処分を通告を強行してきた。

ところで、組合としては十一月六日から宮浦、四山、三川の各鉱正門前で会社のロコツな差別・切りくずしと、三十一名にたいする不当処分に反対・抗議し座り込みをつづけていたが、会社が処分を強行したことによるその後の戦術強化や、年末年始にかけての組織対策に力点をおくことなどを考慮してそれまでの座り込みの成果を確認して、十二月十五日座り込みは解除することとなつた。

一方、この不当処分に反対する法廷闘争については、二十八名（三名は自発退職）の解雇無効の仮処分を十二月二十日福岡地裁に申請した。

また会社は、裁判所にたいし十一月二十五日に三三名の離職者の社宅明け渡しの申請を行なつた。いま社宅にはかなりの空戸があり現実的には明け渡しをする必要がないにもかかわらず、まだ就職も十分でない離職者に社宅を出て行けということは、三池労組の団結破壊をねらつた攻撃であり、組合としては指令違反の退職者を除き総評弁護人に委任し訴訟に応ずることにした。

政転闘争にたちあがる

もちろん首切合理化のあらしは、金炭労をおそつた。宇部、貝島、杵島、高松、大正などには三池労組からも直接バス、自転車、オートバイ隊などを動員して激励交流もしてみんなが共にたたかつた。

ところで、三池闘争いら首切り賃下げ、閉山などの激しい合理化攻撃をうけて、血みどろのたたかいをつづけ、きびしい結果を重ねながらも長期ストで激しく抵抗してきた炭労は、「石炭政策転換闘争」として、政府に石炭政策の転換を求めて大衆闘争でたたかうという方針をきめ、その闘争に立ち上つた。そして、三次にわたる大動員をかけ、キャップランプをつけた作業服に身をかためた炭鉱労働者を東京に結集し、関係各所にたいする抗議、陳情、宣伝アピール活動を行なつた。

三池からも第一次二五五名、第二次十名、第三次三十名が参加して力強くたたかつた。

ふかまつた連帯

この一年をみんなが三池の火を守つて不屈にたたかつた。そして総評、炭労をはじめ全国の仲間も三池を暖く見守つて共にたたかつてくれた。炭労・総評の多額を組織カンパをはじめ、就労後もつづいて全国各地の三池を守る会や、兄姉の同志たちから激励の手紙や寄せ書、カンパ金、物資が届けられみんなを限りなく勇気づけてくれた。

また総評の三池調査団（三月）の派遣、社会党調査団（二月）の来組、労働法学者の三池調査（十月）などが果した成果は大きい。

さらに総評・炭労の組織オルグ投入や、三池と同じく分裂下のきびしいたたかいの経験をもつ兄弟組合からのオルグなどが残した教訓と成果も大きいし、三池労組から幾度かにわたつて炭労さん下各支部をはじめ全国各地に派遣したオルグ活動でも三池の火をひろげるための力をつくした。

この一年は国際連帯のうえでもおおきなあしあとをのこした。

一月三十日幸団長をはじめとする六名の中国総工会代表の来組。四月十一日、曠団長外六名の中国法律家代表の来組。四月十三日ソ連作家代表アレキサンドル氏ら三名の来組。十二月一日の中国人民救援会代表ら三名の来組など多くの外国代表が三池におとずれた。

また三池からの永田教宣部長、甲斐議長、南場主婦会長らをふくむ総評・炭労の三池闘争支援感謝の国際交流オルグの訪中・ソ・東独第五回世界労組大会参加のための北岡執行委員の訪ソなどを通じてふかめられた国際連帯の成果はおおきい。

こうして、みんなでこの一年をがんばりぬいた。

みんなでたたかい、もやしひろげた三池の火をさらにつよめ、あたらしいたたかいの年一九六二年をむかえよう。

一九六一年、さようなら。

▼就職対策問題、法廷闘争問題は新年特集号でくわしくふれることとしてここでは割愛します。

みいけ日誌

12月18日　九本オルグ集約会議、福岡刑事二部四部公判）、主婦会中央評議員会
19日　就職対策部会議、九州各県オルグ来山、無記名投票集約
20日　大地評執行委員会、入院患者見舞、緊就対県交渉
21日　企画会議、九州各県オルグ集約会議、四県主婦学習会
22日　本部役員会、教宣部長会議
23日　主婦会学習会

若葉分会の団結集会
三川支部若葉分会一組合員

三川支部若葉地域分会と主婦会では、十二月三日に去る八月から各人が五〇円づつ積立てた費用で就労一周年団結集会をひらきました。

就労後会社は差別と低賃金を強行し、職制は権力を盾として切りくずしに躍起となり、第二組合は平和協定を結ぶなどして、ただ金さえ儲ければ主義の無気力な御用組合化し、脱落者がふえることで自からの行為を正当化しようと汲々としています。

職場では一年足らずの間に一七名の犠牲者と一、〇〇〇名をこす負傷者が続出し二、三日休めば出勤督励、早出残業で生産のかけ声に息もつまる思いの労働強化で、三池は見違えるほどの変貌たみせ全くの無法地帯を現出しています。

われわれはこのような攻撃に堪えてきました。それどころか職場の民主化をたたかい、合理化に反対して抵抗をつづけています。

弁してもこの団結はくずれません これこそ合理化の本質と、ほんとうの幸せは団結と抵抗のみによつてかちとれるものであることを心底から悟りきつた、労働者の偉大な姿なのです。

集会には分会員、主婦がほとんど全員参加し、来賓として熊本から草野、飯塚さん、岡原から吉村さんはじめ近在の離職者の方たちや、本部から灰原書記長、主婦会から南場会長、谷端三川支部長、坂本、小森の両市議、また古賀山労組からは石田さんが闘争中の若葉駐在オルグ代表として出席されました。

主婦会もまた低収入に堪えアルバイトに、あるいは民主主義を守るために必死に頑張っています。この景気たるや絶対に値するものがあります。

どんなに職勢が切りくずしに狂

地域闘争本部前の会場は、赤旗のまん幕がひかれ、テントを張つてにぎやかなものでした。

午前十時から式典をはじめ、書記長や来賓から激励と祝辞をうけ遠方の離職者からのメッセージ披露や、団結写真や寄せがきなどあつてから祝宴に入りました。

うたごえ隊の寸劇や谷端支部長南場会長の歌、組合員の浪花節、うたなどに興じ、全員心から決意も新たに〝頑張ろう〟をうたつて解散しました。

われわれの地域では第二組合との数も相半ばしていますが、みんなかたい自信と誇りをもつてさいごの勝利のよろこびを味あう日までの団結を誓つて、さらに前進をつづけることにしました。